

# あら、お！再発見ツアー

## “万田の昭和を歩く”

### 万田坑

万田坑は三井の総力を挙げて整備された、わが国最大規模の堅坑だった。明治30年から同35年にかけて作られた第一堅坑と、明治31年から同41年にかけて作られた第二堅坑とからなります。大正から昭和にかけて、各施設を電化するなど設備や機械も充実し、出炭量も増大していきました。大正2年～昭和6年の19年間に930万8340トン(年平均66万トン)、昭和2年～20年の19年間に1643万126トン(年平均86万トン)を出炭していた。

平成27年7月に万田坑及び専用鉄道敷跡を含む「明治日本の産業革命遺産 製鉄・製鋼、造船、石炭産業」が、世界文化遺産に登録された。

● **万田坑**  
後 300m



● **売店**

● **沈殿池**

● **万田坑ステーショントイレ**

● **万田炭鉱館トイレ**



**万田炭鉱館**  
荒尾市地域産業交流支援館として、2000年の6月1日開館した。

**万田公園**  
万田池は防火用水のため掘られた。大正11年、当時の万田共済組合が公園化の為、桜の木が植えられた。昭和4年、三井炭山が「万田公園」を一般公開し、売店や余興などが開かれるようになって、ここは荒尾一の名所となり、一時は「熊本百景」の一つとして絵葉書にもなったほどであった。周辺にはプール・山の神・青年学校・社宅・商店街などがあり、炭鉱の町が形成されていた。

● **福岡県と県界**

● **万田尋常小学校**  
後 2130m



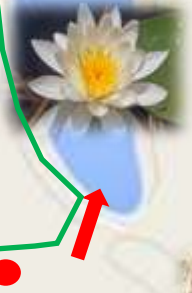
● **もののけの森**

● **旧五中トイレ**



● **万田公園**

● **万田池**



● **山の神神社**  
後 3210m



● **万田坑保育所跡**  
後 3460m

**三井万田尋常小学校跡**  
明治40年、三井鉦山が荒尾尋常小学校の分教場として創設。明治42年、私立三井万田尋常小学校として独立し、荒尾市立荒尾第四小学校の母体となった。その後、荒尾市立万田保育園となった(H28年3月閉園)。

**万田青年訓練所グラウンド**  
万田グラウンド(現・荒尾市立荒尾第五中学校グラウンド)は、大正15年7月、青年訓練所令により、万田青年訓練所が三井鉦山により三井万田尋常小学校に併置造られたもので、義務教育後の万田坑従業員やその子弟を対象に4年間にわたって社会教育のかたわら、特に軍事教練が施されていた。

**火薬庫トンネル**  
万田グラウンドに大正15年7月設置された火薬庫トンネル。裏山にあった火薬庫へ続いている。防空壕としても使われていたようである。閉山後は、トンネル内の一定の気温を利用してマッシュルームが栽培されたが、成功しなかった。

**山ノ神神社**  
愛媛県大三島町に鎮座する大山祇神社から分祀された。大山祇の神は「おおいなる、やまにすむ神」であり、万田大山祇神社は、通称「山ノ神神社」として、炭鉱で働く者に敬われていた。

● **一丸館**  
後 1420m

**一丸館**  
万田坑の開坑後、倉掛が発展したため、石橋氏大正2年、階上約67坪、階下約215坪の一丸館を建て、月に15日の芝居興行を始めた。座席は正面玄関左右に絵看板が掲げられ、江戸の芝居小屋を思わせる古風で華やかな雰囲気が醸し出されていた。

● **中間地点**  
後 1800m

平成28年7月23日

「万田炭坑と共に栄えた倉掛地区の、昭和の面影を辿るコース。」

